

沢津音頭保存会

第二次世界大戦後、人心に潤いを与えて地域を復興したいとの思いから作られました。地域が生んだ偉人や美しい風景、名所旧跡などが織り込まれ、ふるさとを賛美する内容です。

和太鼓クラブ黒森会

大生院の住民を中心に1995年に結成しました。「黒森灼然太鼓^{しゃくせん}」は、強力な法力で諸悪を灼熱の炎で焼き尽くすといわれる灼然菩薩が由来になっています。正法寺の供養祭などで演奏しています。

多喜浜校区郷土芸能保存会

多喜浜地区は塩田の開発により栄えた町です。1959年に廃田になりましたが、塩の文化を後世に伝えるため、多喜浜塩田をたたえる踊りを地域住民で完成させました。

別子銅山せつとう節保存会

別子銅山へ出稼ぎにきた坑夫らによって歌われた作業歌だと言われています。「チンカン…」と響くせつとう（つち）の音とともに「行こうか戻ろうか銅山やまへここは思案の眼鏡橋」と哀調切々と歌います。

中萩校区郷土芸能保存会

「広瀬お茶もみ唄」は、別子銅山の近代化に努めた住友家初代総理人広瀬幸平ゆかりの製茶場で従業員が歌った労働歌です。

「中萩音頭」は、軽快なメロディーに中萩の地名や名所を紹介しています。

神郷史情保存会

1番から6番までで曲が構成されています。神郷6地区の地名や歴史上の出来事を数多く盛り込んでいます。歌って踊りながら子どもが地域の学習をできるよう、歌詞が工夫されています。

西蓮寺獅子舞保存会

戦後間もない頃に大三島から伝承された獅子舞を元に、独自の舞を工夫して活動が続けています。正月やこどもの日、秋祭りなどのおめでたい場で演舞を披露し、多くの人に喜ばれています。

勇太鼓保存会

1987年に誕生した和太鼓団体です。市制50周年を記念して創作された和太鼓曲「新居浜勇太鼓」を中心に練習に励んでいます。情熱と迫力の和太鼓演奏を披露しています。



4. 神郷史情 5. 別子銅山せつとう節 6. 勇太鼓 7. 黒森会

つなごう、地域の宝

本市には、古くから郷土に伝わる歴史や昔話、伝説などをもとにした多くの郷土芸能があり、保存伝承活動を行っています。

各団体では一緒に活動してくれる人を募集しています。興味のある人は、各公民館または文化振興課までご連絡ください。

市郷土芸能保存連絡協議会に加盟する13団体を紹介します。※活動休止中の団体除く



詳細はこちら

小女郎たぬき踊り保存会

新居浜に伝わる昔話「一宮の小女郎たぬき」に登場するたぬきをモチーフにして作られた元気で楽しい踊りです。地域ぐるみの行事で披露され、踊りの輪が広がっています。

金栄トンカカさん踊り保存会

秀吉の四国攻め、特に「天正の陣」で討ち死にした郷土の戦国武将、金子備後守かねとびんごのかみ元宅もとゐを弔うために始まったとされる踊りです。毎年7月17日には菩提寺である慈眼寺で踊り、法要供養祭を実施しています。

口屋音頭保存会

「口屋」とは、1702年に、今の口屋跡記念公民館の場所に設けられた浜宿で、粗銅を大阪に運ぶなど物流中継地として栄えました。銅山に携わった先人の偉業や人々の労苦を後世に伝える音頭です。

かぶと踊り保存会

室町時代から船木地区に伝わる悠長で原始的な雨乞い踊りです。地形的に天水に頼ることが多く、船木地区南方にそびえる兜山に祭られている不動尊かぶとを崇拝し踊りました。2004年に市無形民俗文化財に指定。

垣生じょうさ節保存会

約250年前から歌われていると言われていています。新築落成や婚礼などのおめでたい席で歌われ、宴たけなわになると歌詞を即興的に作詞して歌われたとのこと。1978年に市無形民俗文化財に指定。



1

2

3